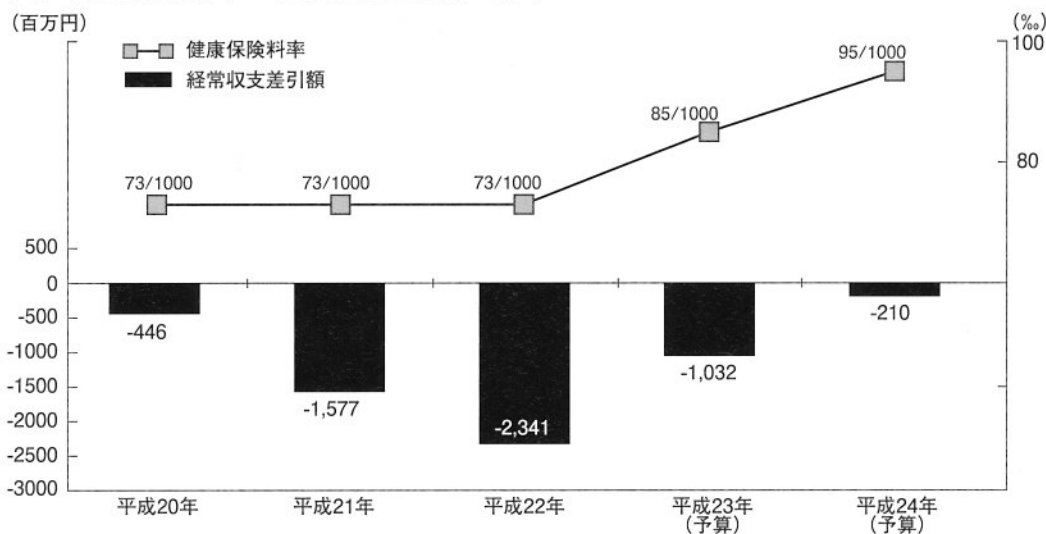


図 健康保険料率と経常収支差引額の推移



途積立金等からの繰入れなどを計上したうえで、10%増の95%への引上げとしました。昨年度に引続く負担増となりますが、保険者機能を発揮、維持していくためにも、皆様のご理解をお願いします。

Ⅱ 収入

被保険者数、標準報酬月額ともに減少

平成24年度予算を算出するにあたり、ここ数年若干ながら増加傾向であった被保険者数は前年度予算比398人減の3万1472人、平均標準報酬月額は同比4938円減の36万8694円を基礎数値とし、保険料率を95%としました。健保組合の主財源である保険料収入は、基礎数値が前年度より減となりましたが、保険料率を引上げたことにより、同比14億7000万円増となる160億8200万円と見込みました。

Ⅲ 支出

保険給付費・納付金の増加は止まらず

保険給付費は、自然増分に医療費改定の影響を加味して、前年度予算比2億5300万円増の85億500万円となりました。これは保険料収入の約55%を占めています。

また、高齢者の医療費を各保険者で負担している納付金等も、同比3億5200万円増の65億1200万円、特に後期高齢者支援金の増加分が2億1400万円と大半を占めています。なお、納付金等総額では保険料収入の約40%を占め、保険給付費に迫る勢いとなっております。

り、このふたつの支出で、保険料収入の95%をも占めています。

各種健診を中心とした保健事業費は、健保組合の最大のメリットであり、事業内容の維持・充実を図るため、前年度並みの6億5000万円としました。

Ⅳ 収支

昨年に引続き経常収支は赤字

経常収支(通常業務による収支)においては、経常収入が保険料率の引上げにより前年度予算比14億8300万円増の161億9100万円、経常支出は保険給付費・納付金等の増加を受けて、同比6億6200万円増の164億100万円となっています。差引きすると2億1000万円のマイナスとなりますが、これは、別途積立金等から2億7200万円を繰入れたことによるものです。

医療費や納付金等の増加に歯止めがかからない現状は、制度構造上の問題も否定できません。健康保険組合連合会(健保連)では、高齢者医療制度の公平な医療費負担をはじめ、さまざまなアピールを行っています。

皆様におかれましては、医療費の節減に効果のあるジェネリック医薬品や、疾病予防・健康増進のための保健事業を積極的に活用ください。医療費の軽減が保険料率の上昇を抑えることへとつながります。これからも当組合の事業運営にご理解とご協力をお願いします。

*保健事業については本誌5～6ページおよび折込みの「当健保組合の健診事業」をご覧ください。